

(環境) 細川小学校 4年

細川学区の環境守ろう隊

5月～2月（70時間）

1、ねらい

- ・学区に流れる北斗川の生き物を観察・調査する活動を通じて生き物の命の大切さに気づくことができる。
- ・生き物の住む環境に関心を持ち、人間の手によって自然を破壊していることに気づき、その問題を解決するために自分たちにできることは何か考え調べることができる。
- ・本やインターネットを使って必要な情報を収集したり選択したりすることができる。
- ・調べて分かったことや気づいたこと・考えたことを分かりやすく伝えるために、まとめ方や発表の仕方を工夫することができる。
- ・自分で発表したこと、また友達の発表を聞いて自分たちにできることを考えることができる。

2、実践の概要

(1) 環境教室1

環境教室の先生を招き北斗川に住んでいる生き物（指標生物）を捕まえて、今の川の状態は4段階（とてもきれい、きれい、汚い、とても汚い）のうち、どの状態なのかを調べる活動をしました。いろいろな生き物が川にいることから子どもたちの大半はきれいだと思っていたのですが、生き物を捕って調べてみると、汚いという結果がでました。

川の汚れ以外にも、川に捨てられたゴミが海まで流れ、そこに住む生き物が食べて命を落としてしまうといった生態系に関する話を写真を使って見せていただきました。鳥が誤って食べてしまったゴミの写真を実際に見た時、子どもたちの表情は真剣そのものでした。環境教室を通して子どもたち一人一人が、環境に関心を持ち今後調べていくことを決めました。



(2) 環境教室2

水から連想されることは？で始まった環境教室2回目。生活、仕事（工場）、その他（農業など）の三つの中から、一番水の汚れのもとになっているのはどれか考えました。その予想の後に、水道水、北斗川の水、しょうゆが一滴入った水、洗剤が一滴入った水を使って、水の汚れを調べました。CODパックテストを用いて、汚れを数値で表しました。子

どもたちが思う以上に生活から出る水は汚いということが分かりました。しょうゆたった一滴で！？洗剤ってきれいにする液体じゃないの？というように、家から出る排水は意外ときれいだと思っていたようです。改めて、人間が自然を汚してしまっているということを子供たちは勉強しました。



(3) グループ活動

環境教室をもとに、子どもたちが興味をもったことで、調べたいことをアンケートしました。「①川のごみのゆくえ②川の水をきれいにするには③川に住んでいる生き物④北斗川にほたるを」という4つのグループを作り、活動しました。中でも、「④北斗川にホタルを」



グループは、北斗川にはホタルの幼虫の餌になるカワニナがたくさんいるのに、なぜホタルはいないんだろう。北斗川にホタルが住めばいいのに、と思う子どもたちが集まりホタルの生態を本やインターネットを使い調べました。職員玄関横に設置された、ホタル育成コーナーにおいてホタルの成長を観察したり、ホタルの世話をされている校長先生にホタルのことをインタビューしたりしてホタルのことを調べました。12月には、校長先生と一緒にホタルの幼虫を北斗川に放流しに行きました。

(4) 学習発表会

調べてまとめたことを、グループごとに発表しました。各グループ発表の仕方はそれぞれ紙芝居や寸劇などみんなにより伝わるように工夫されており、グループのカラーがとてもよくできていました。クラス内での発表の後は、3年生に発表するというので、熱心に発表の練習をしました。

(5) 実践を振り返って

環境は大切にしなければならないということは、子どもたちほぼ全員が始めから認識していました。しかし、実際にどんなことが自然を壊しているかは、認識しておらず環境教室がとてもいい刺激になりました。身近である北斗川を使って勉強したことで、学区の豊かな自然の良さを再認識するとともに、子どもたちの環境保全に対する意識も高まっています。これからも身近な地域素材を開発し、大切に守り育てていきたいと考えています。